



お米作りが盛んに行われるようになるドウ。
狩りや漁と違って、食料が安定して手に入る
ようになるドウ。



弥生時代

紀元前300年～300年

時代の概要

朝鮮半島から稲作や鉄器、青銅器の文化・技術が伝来します。人々は定住してムラを形成し、稲作中心の生活になります。ムラとムラが戦うようになり、戦乱の時代となりました。

塚塚市域では、西宮市との市境にある仁川高台遺跡が発掘調査で見つかります。中山寺付近の中山荘園では、銅鐸が出土しており、弥生時代には市域で人々が暮らしていた様子が伺えます。

市内の主な遺跡

に が わ た か だ い い せ き な か や ま そ う え ん どう た く し ゅ つ ど ち
仁川高台遺跡・中山荘園銅鐸出土地

仁川高台遺跡（※現在は住宅地です。）

西宮市と市境の仁川高台1丁目・2丁目の小台地上にある、弥生時代中期の遺跡です。武庫川流域を眼下に収め、猪名川流域や千里丘陵まで眺望することができる絶好の立地に位置しています。

昭和のはじめ頃から遺跡の存在が知られており、昭和53年(1978年)に塚塚市域側で行われた発掘調査で、溝や土坑が見つかり、石器や多くの弥生土器が出土しました。

その後、西宮市域側の発掘調査において、竪穴式住居2棟が見つかったことから、居住地であったと考えられています。また、標高の高い立地にあることから、高地性集落のひとつと考えられています。



出土した弥生土器(器台)

どうさかくんメモ



中山荘園銅鐸出土地

【県指定重要有形文化財 四区画袈裟禪文銅鐸 2口】

昭和17年(1942年)に中山荘園の個人宅で井戸を掘削中に、2個の銅鐸が重なった状態で出土したドウ。

銅鐸は豊穡を願うマツリで、木に吊るし音を鳴らして使われていたと考えられている鐘だドウ。観賞用の1mを超える大型のものもあるドウ。

(写真) 2号銅鐸(左) 高さ41.9cm・1号銅鐸(右) 高さ42.6cm

